

## 【要約】豊中市における健康データの利活用に関する調査研究

主任研究員 石村知子

### ■ 背景・趣旨

○地方自治体の内部で蓄積されている行政データを活用した、健康政策の推進が注目される。様々なデータを活用し、市民の健康をどのように可視化し、政策形成につなげるかが問われる。

○ただし、現状では、そのようなデータの利活用が十分に行われ、政策に生かされているとは言い難い。

○では、市内の健康データはどのように利活用できるのだろうか。本研究では、以下の3つの研究課題を掲げ、市民の健康課題の可視化や、健康政策の効果の分析に取り組むとともに、関連部署と連携した大学との共同研究を実施し、健康データの利活用のあり方を実践的に検討する。

#### 【研究課題】

- ①健康データの分析に裏づけられた豊中市民の健康課題の整理
- ②健康データを用いた豊中市における健康政策の分析
- ③健康データの利活用のありかたについての検討

# 構成

- **第1章 はじめに**

研究の背景・目的、データを利活用した健康政策の課題と意義、国・自治体の動向、自治体で利活用可能な具体的な健康データの概要、健康データに関わる法令等、先進事例を整理

- **第2章 市民の健康課題の見える化**

国民健康保険データベース（KDB）のデータを活用して、全市的な健康水準及び医療費の状況と市内の地域別の状況を可視化

- **第3章 被保護者健康管理支援データの活用**

生活保護受給者（被保護者）の健康管理支援データの活用について論じる。本データの活用については、専門性が高い領域であることから大学と本市との共同研究として取り組む

- **第4章 共同研究による健康政策形成の可能性**

第3章で実施した共同研究のプロセスを取り上げ、共同研究を今後の市の政策形成へどのように活かせるかについて論じる

- **第5章 おわりに**

健康データの政策展開に向けた今後の可能性についてまとめる

## 調査研究の特徴

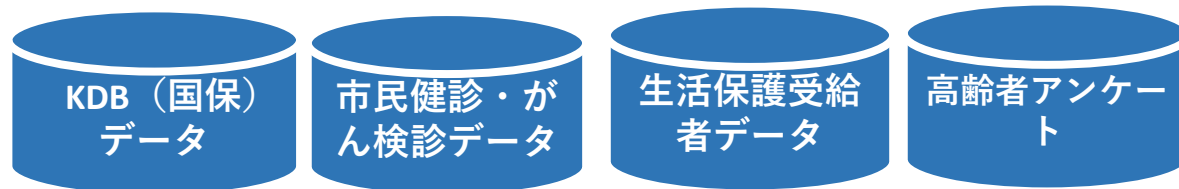
- 庁内の問題意識を基に、各種データを部署を横断して接合・匿名化加工しデータ利活用の基盤を整備
- そのうえで、市の健康課題をデータをもとに可視化し、重点課題・ターゲットを抽出
- 本研究所にてデータ整備、共同研究の諸調整を行い、調査研究を円滑化

### 【庁内の問題意識】

- ✓健康への意識が低い人が多く、健診受診率も低い生活保護受給者（以下、被保護者）への保健指導、受診勧奨を効果的に実施し、被保護者の健康寿命の延伸、ひいては医療扶助費・介護扶助費を削減したい。  
（市福祉事務所）
- ✓現場では個人の能力・経験に頼った対応や、現場にあるデータのみを分析した事業展開になりがちであり、エビデンスをもとに組織的に事業として健康課題への対応策を展開できないか。

### 庁内の課題解決に向けた調査研究スキーム

#### ●部署を横断したデータの接合・匿名化

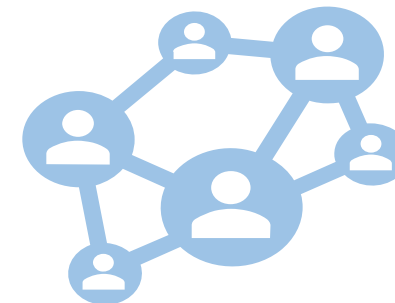


福祉部・健康医療部の健康データ

#### ●外部の研究者と連携した分析の実施

福祉部

研究所



大阪医科薬科大学  
京都先端科学大学  
新潟大学

共同研究

# 調査研究の成果・展望

## ■ 成果

- ・被保護者健康管理支援事業の効果検証や地域の健康状況の可視化を通じて、庁内担当部署の依頼に応えることができた。
- ・複数部署のデータの接合や大学との共同研究の実施など、今後の庁内データ利活用の促進につながるノウハウを蓄積した。

## ■ 展望

- ・政策立案者に研究内容をいかに分かりやすく届けるか(informed) という“EIPM” (Evidence-Informed Policy Making：エビデンスを踏まえた政策形成) の視点が必要。
- ・市の健康課題をとりまく様々なアクターを意識し、積極的に連携を深める姿勢と行動が今後も重要となる。自治体シンクタンクがコーディネート役として健康データ利活用推進をサポートすることが期待される。